桃五だより

杉並区立桃井第五小学校

https://www.suginami-school.ed.jp/momo5shoubg/

№616

（10 月号）

2022.9.30

ハインリッヒに学ぶ安全な学校づくり

副校長　橋本　潮

10 月の生活指導目標は「安全に生活をしよう」です。学校経営上、子供たちの安全を確保することは、最も重要視していることの一つです。それでも、学校内外で事故が起こってしまうことがあり、その時は本当に心苦しくなります。安全でなければならない学校で、大切な我が子がけがを負ったとなると、保護者の不安感は計り知れません。だからこそ、なんとしてでも事故は未然に防止したい、そんな思いで安全教育や安全管理を行っています。

アメリカの危機管理の先駆者であるハーバード・ウィリアム・ハインリッヒは「１つの重大災害の背後には 29 の軽傷災害があり、さらにその背後には 300 のニアミスがある。」という有名なハインリッヒの法則を提唱しました。今から 90 年以上も前の論文で発表され、今でも多くのリスクマネジメントの場で引用されています。それだけ様々な危機管理の場面において、有効な理論だと考えられているからです。ハインリッヒの法則によれば、もし、教職員が、300 のヒヤリハットの段階で危険に気付き、その危険を取り除くことができていれば、１つの重大な事故を未然に防ぐことができます。

また、ハインリッヒは、論文の中で「事故の原因の 17%は不安全な行動（危険な行動）、５%は不安全な環境（危険な環境）、77%はその両方である。」とも提唱しています。この理論によると、学校が、計画的な安全教育によって、子供の危険な行動を防ぎ、教職員による日常の安全管理によって不安全な環境（危険な環境）を解消することができれば、理論上は学校事故の 99%（17%＋５%＋77%＝99%）は未然に防止できることになります。

本校の安全教育については、日常の学級指導の他、月一回、安全指導日を設け、生活安全や交通安全等のテーマに沿って指導を行っています。また、月一回の避難訓練における講話や外部講師を招いた講習会などを計画的に実施しています。安全管理については、日常の点検に加え、月に一度の安全点検日を設け、学年ごとのグループで、学年が使用する教室と共通に使用する部分を分担して確認をしています。教職員には、学校の安全保障は、安全教育と安全管理を両輪として、事故を未然に防止することが、最大のリスクマネジメントであるという考え方を徹底していきたいと考えております。

そして、現実問題として事故が起こってしまう以上、その際の応急手当や救命措置などのクライシスマネジメントの強化も図っていかなければなりません。先日、改めて全教職員で、エピペンの研修を行いました。水泳指導の前にはＡＥＤの研修も行いました。アナフィラキシーショックや心停止など、事故発生直後の対応が一刻を争う場面があります。一秒でも早い対応が求められる中で、教職員が管理職に「どうすればいいですか？」と判断を仰いでいる時間はなく、各自の判断で適切な対応ができなければなりません。

今、教職員の多忙化が全国的に課題とされ、学校としての働き方改革を進めることが求められています。しかし、子供の安全保障に関することは、決して削減してはいけません。ハインリッヒの理論に学び、ヒヤリハットの段階で危険の芽を摘み取り、全教職員で学校事故の未然防止・再発防止に取り組んでまいります。

１０月の生活指導目標

安全に生活をしよう

２学期が始まり約一か月がたち、疲れが出てくる時期です。このような時には思わぬ事故や怪我が起こりがちになります。オープンスペースや階段、教室での過ごし方、登下校中のルールなどをもう一度確認し、大きな怪我や事故などの無いようにしましょう。